

八葉車物見大八葉、上下常乘之、

〔古今著聞集十三〕後中書王親王、雜仕を最愛せさせ給ひて、土御門右大臣をば、まうけ給ける也。

朝夕是を中にすへて、あいし給事限なかりけり、月のあか、りける夜、件の雜仕をぐし給て、遍照寺へおはしましたりけるに、かの雜仕、物にとられて失せにけり、中書王、なげきかなしみ給、理にも過たり、思あまりて、日比ありつるま、にたがへず、我御身と、失せにし人との中に、この兒を置きて見給つる形を、車の物見の裏に繪にかきて御覽じける、さる程に、寛弘の中殿の御作文に参り給て、其車を陣にたてられたりける程に、物見落たりけるを、牛飼たつるとて、あやまりて裏を面に立てけり、其後あらためらる、事なくて、今におほがほの車とて、かの家に乗り給へるは、此故に侍るとぞ申傳たる、

〔台記〕保延二年十月廿二日丙辰、著布衣參鳥羽長物車、十二月九日壬寅、曙程、相具内房渡東三條中

略予藤原乘長物見車車副人

〔百練抄七〕後白河、保元三年四月廿日、賀茂祭、博陸藤原於町棧敷見物、宰相中將信賴、欲通彼前之間、

雜人鬪亂、打破中將車物見、

〔吉記〕安元二年四月廿二日丁酉、今日賀茂祭也略中

路頭次第甚狼藉也

先馬寮使車上覆物見付藤、袖並金銅輪知、加陪長物見有立緣、

〔山槐記〕治承三年正月廿日己卯、今日著直衣、用日來車中八葉切物見、大理乘車也、四月廿一日己酉、今日賀茂

祭也略中

近衛使車

物見以青玉、石疊形貫懸之、但下方一尺之程卷上之、